

1-8. 糖尿病の予防や治療に関する情報源

糖尿病の予防や治療に関する情報源は、男女ともに、「テレビ・ラジオ」、「新聞」、「雑誌・本」と回答した者が多かった（複数回答可）（図6-1）。

項目別に見ると、「テレビ・ラジオ」「雑誌・本」と回答した者の割合は、40～60歳代女性で特に高かった。また、「健診・人間ドック」と回答した者の割合は、50歳以上男性で特に高かった（図6-2）。

図6-1 糖尿病の予防や治療に関する情報源（20歳以上）

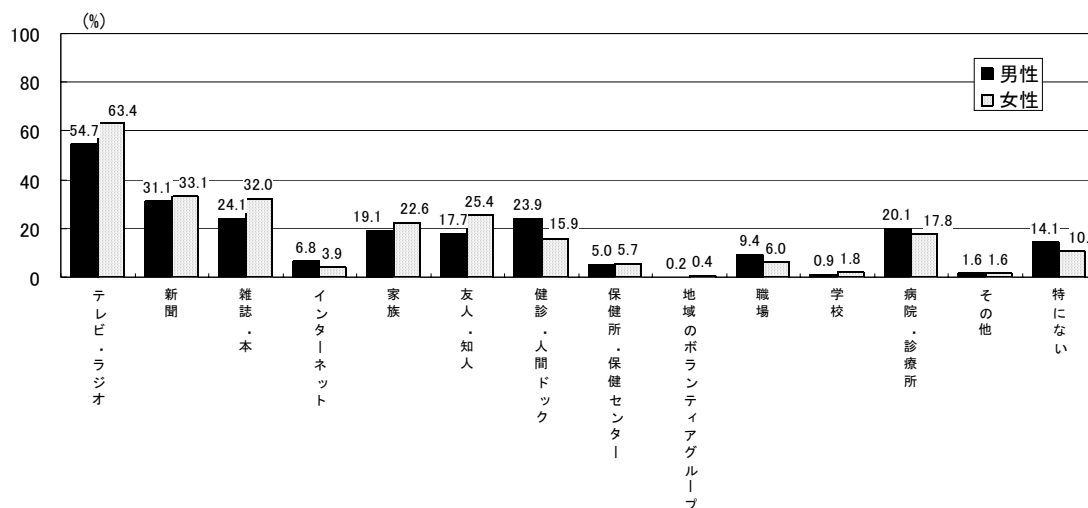
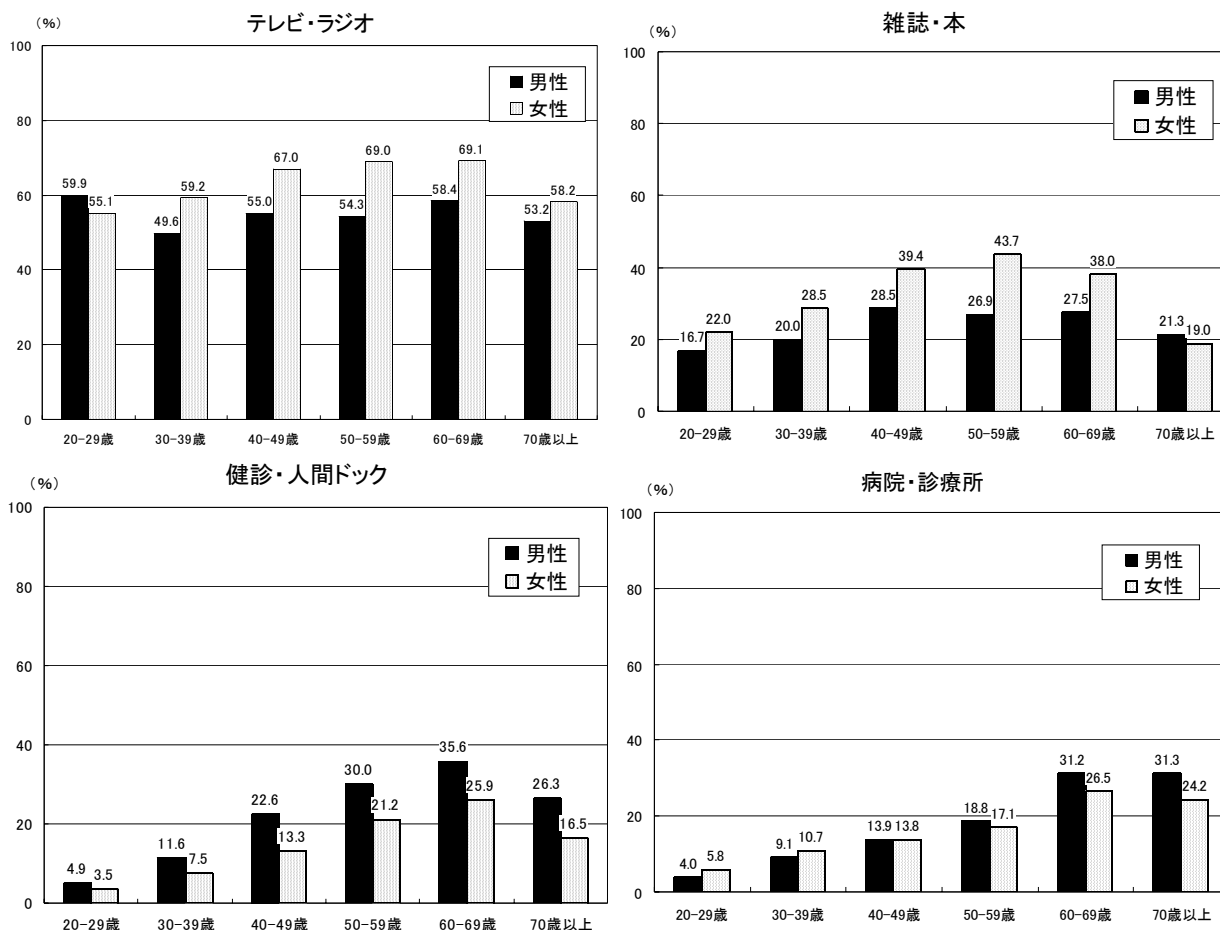


図6-2 糖尿病の予防や治療に関する情報源（項目別）

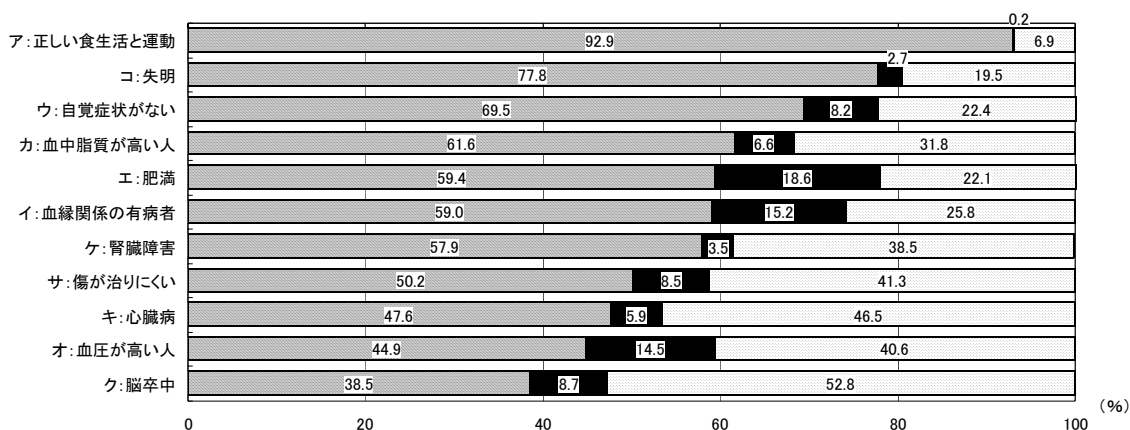


1-9. 糖尿病に関する知識の状況

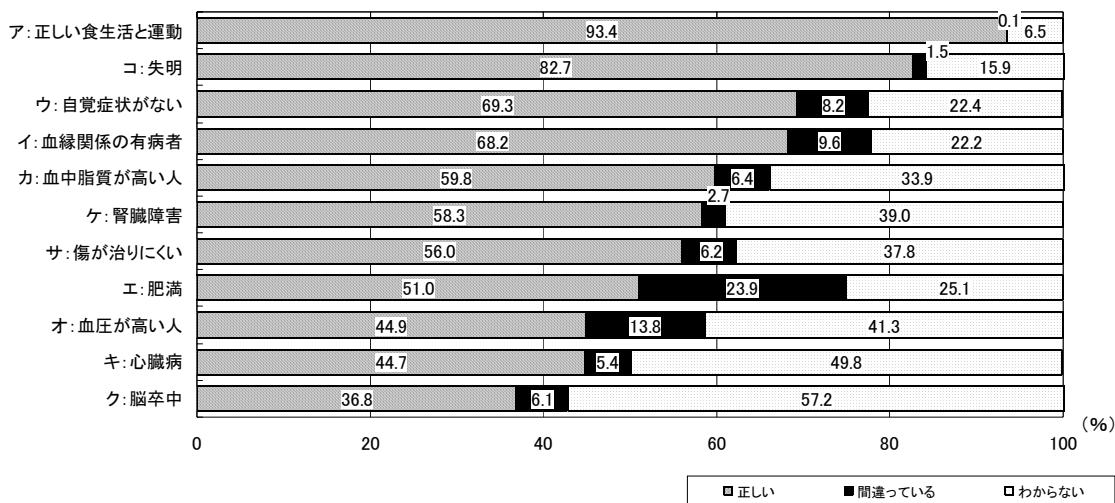
糖尿病に関する知識について、正答率が高かったものは、男女ともに、「正しい食生活と運動習慣は、糖尿病の予防に効果がある」、「糖尿病は成人における失明の原因になる」であった。

図7 糖尿病に関する知識の状況(20歳以上)

男



女



【質問項目】

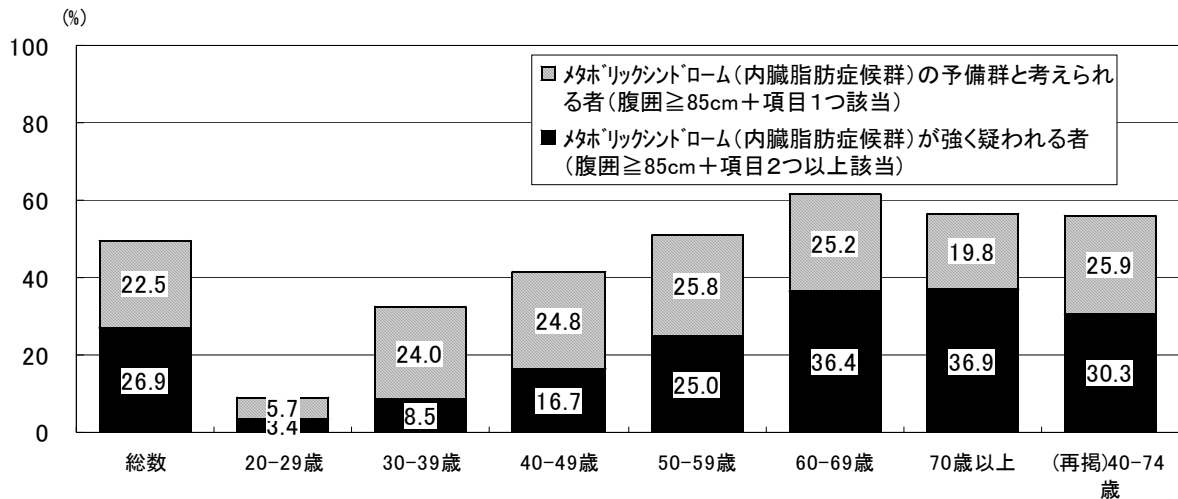
- ア. 正しい食生活と運動習慣は、糖尿病予防の効果がある
- イ. 血のつながった家族に糖尿病の人がいると、自分も糖尿病になりやすい
- ウ. 糖尿病になっても、自覚症状がないことが多い
- エ. 太っていると、糖尿病になりやすい
- オ. 糖尿病の人には、血圧の高い人が多い
- カ. 糖尿病の人には、血液中のコレステロールや中性脂肪が高い人が多い
- キ. 軽い糖尿病の人でも、狭心症や心筋梗塞などの心臓病になりやすい
- ク. 軽い糖尿病の人でも脳卒中になりやすい
- ケ. 糖尿病は腎臓障害の原因となる
- コ. 糖尿病は成人における失明の原因になる
- サ. 糖尿病の人は、傷が治りにくい

2. メタボリックシンドローム

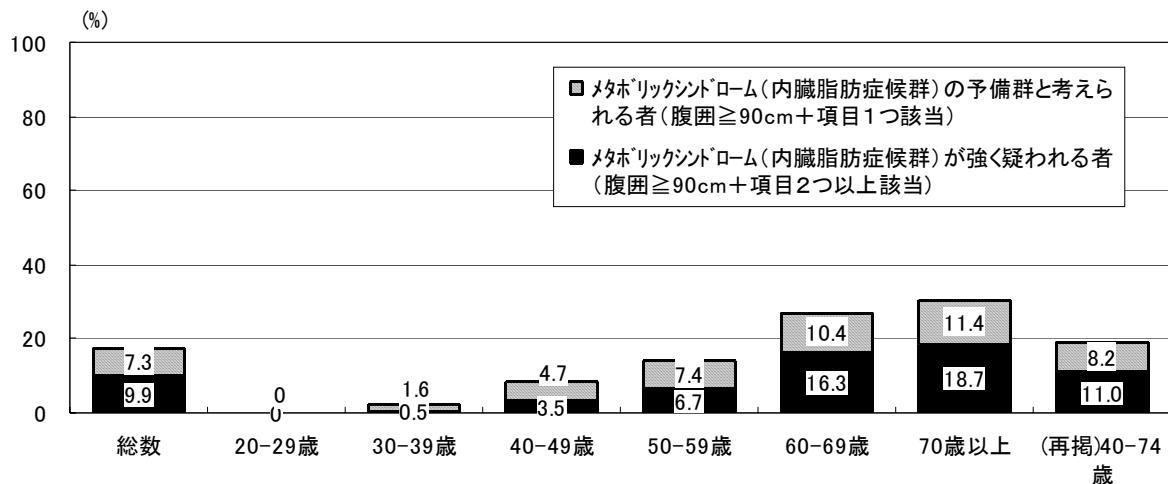
40～74歳で見ると、男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者又は予備群と考えられる者。

図8 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状況（20歳以上）

男



女



※各年代のメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者と予備群と考えられる者について、平成19年10月1日現在推計の男女別、年齢階級別の40～74歳人口（全体約5,800万人中）を用い、それぞれ該当者、予備群として推計したところ、40～74歳におけるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の該当者数は約1,070万人、予備群者数は約940万人、併せて約2,010万人と推定される。

（参考）表7 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の該当者、予備群の推計
（平成16年、平成17年、平成18年）

※ただし、平成19年調査より、服薬状況の間に「中性脂肪を下げる薬」が追加された為、平成19年の結果は平成18年以前の結果と単純比較できない。

	平成16年	平成17年	平成18年
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者（該当者）	約940万人	約920万人	約960万人
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予備群と考えられる者	約1,020万人	約980万人	約980万人